報　告

Present Status and Self-reported Diseases of the Korean Atomic Bomb Survivors: A Mail Questionnaire

韓国人原爆被爆者の現状と自己申告した疾病：質問紙郵送調査【抄　訳】

*Hyung-Joon Jhun[1]，Young-Su Ju[2]，Jung-Bum Kim[3]，Jin-Kook Kim[4]

この論文は下記（※）のとおり発表されているものである。原爆投下で被爆したのは日本人だけではなく、当時広島、長崎に住んでいた大勢の韓国人も同様に深刻な被害を受けた。帰国し、生きて今なお原爆に起因する疾病を抱えている韓国人被爆者を調査した貴重な報告となっている。

〔抄訳者：愛知教育大学・久永直見（産業医学）〕

はじめに

原爆投下により広島では推定140,000±10,000人、長崎では70,000±10,000人が死傷した[1)]。当時、韓国は日本に占領されていた。日本帝国政府は、多くの韓国人を徴兵し、あるいは労働者として日本の軍需工場で働かせた。韓国人は食うために渡日してもいた。その結果、広島、長崎では、多数の韓国人も被爆した[2)]。広島では30,000人が死に、20,000人が生き残り、長崎では10,000人が死に、10,000人が生き残ったと推定されている。広島、長崎で生き残った30,000人中、23,000人はのちに帰国し、7,000人が日本にとどまった[3)]。

被爆者の困苦は帰国後も続いた。多数の被爆者が韓国戦争中に死亡したと思われる。被爆を証明できる書類、出生届なども戦争中に失われた。被爆者は、健康障害だけでなく、貧困と広島、長崎への強制連行と賠償に関する日本政府の無責任な対応をも経験した。

韓国人被爆者は1990年代まで日本政府による認定を受けられなかった。被爆者の長年の努力の結果、認定されるようになった。2004年に、2,235人が韓国原爆被爆者協会に登録された。被爆者の多くが認定されずに死に、またある人々は社会的偏見をおそれて被爆者であることを隠したため、韓国人被爆者の正確な数は不明である。被爆認定を受けるためには、被爆を証明するために日本に行き、健康診査を受けねばならなかった。日本政府は、1,585人の協会員を、証人、在住届、出生届により被爆者と認定した[4)]。残りの人々は、証明書類や証人を得られない、健康上の理由による日本渡航困難などのために認定されなかった。

日本人被爆者の健康については多くの報告がある[5~9)]が、韓国人についてはごく少ない[10)]。そこで、韓国人被爆者の現状と健康に関する質問紙調査を実施した。

方　法

2004年10月から12月に、韓国原爆被爆者協会員を対象に質問紙郵送調査を実施した。調査項目は、下記のとおりである。

＊チョン・ヒョンジュン[1]、チュ・ヨンス[2]、キム・チュンブム[3]、キム・チングク[4]

※Medicine, Conflict and Survival, Vol. 21, No. 3, 230-236, 2005
掲載誌は、IPPNW（the International Physicians for the Prevention of Nuclear War-http : //www.ippnw.org/）の指定誌である。

1．生年月日、性、結婚、学歴、日本政府発行の被爆者カード所持
2．喫煙、飲酒
3．被爆時の場所、経験した急性放射線障害の症状
4．医師の診断した疾病
5．被爆によるあるいはそれとの関係が報告されている慢性疾患と新生物

被爆者が自力回答困難な場合は、当該被爆者をよく知る人の回答を可とした。

結　果

2,235人中、1,405人が回答した。不完全な回答を除き、1,256人（56.2%）を分析対象とした。

分析対象中、女性665人（52.9%）、男性591人（47.1%）。

被爆者カード所持は987人（78.6%）。

60歳代が53.3%。既婚63.6%、死別22.8%、未婚2.5%。

未教育45.6%、高等学校以上は10.4%。

喫煙なし62.3%、飲酒なし71.9%。

被爆地、被爆時年齢、急性放射線障害の症状は**表1**、医師が診断した慢性疾病は**表2**、同じく新生物は**表3**に示したとおりである。

考　察

本論文は、日本以外の国に暮らす日本人でない一般市民の被爆関連健康問題に関する最初の報告である。本調査における回答率は、郵送調査としては高い。**表2**、**表3**に示した疾病の頻度は、時期を特定しない過去の発生である。

われわれの研究は科学的精度という点で制限がある。第一には、自己申告であること、第二には、回答率が高いとはいえ、健康状態の悪い人がより高率に回答する可能性があることを考慮せねばならない。しかしながら、韓国人被爆者に関する情報が極めて少ないなかで、本研究は有用な情報を提供する。

韓国人被爆生存者の半数以上が70歳より若かった。2004年の韓国の平均寿命（統計庁発表）は、

表1　被爆地、年齢、急性放射線障害の症状

		人数	%
被爆地	広島	1188	94.6
	長崎	68	5.4
被爆時年齢	胎内	26	2.1
	0－9	657	52.3
	10−19	398	31.7
	20−39	167	13.3
	40−	8	0.6
急性放射線障害の症状	食欲不振	294	23.4
	吐き気	268	21.3
	嘔吐	309	24.6
	腹痛	177	14.1
	下痢	169	13.5
	発熱	219	17.4
	倦怠・脱力	305	24.3
	混迷	368	29.3
	意識消失	175	13.9
	けいれん	46	3.7
急性放射線障害の症状の個数	なし	478	38.1
	1－3個	504	40.1
	4－5個	150	11.9
	6個−	124	9.9

表2　医師に診断された慢性疾病（回答者の自己申告）

	人数	%
高血圧	504	40.1
消化性潰瘍	323	25.7
貧血	293	23.3
白内障	290	23.1
虚血性心疾患	238	18.9
喘息	232	18.5
糖尿病	219	17.4
高脂血症	124	9.9
脳卒中	108	8.6
甲状腺疾患	74	5.9

表3　医師に診断された新生物

	人数	%
悪性新生物		
胃がん	24	1.9
大腸がん	6	0.5
白血病／多発性骨髄腫	5	0.4
肝がん	1	0.1
肺がん	1	0.1
皮膚がん	1	0.1
膀胱がん	1	0.1
前立腺がん	1	0.1
喉頭がん	1	0.1
婦人科の新生物		
子宮頸部がん	8	1.2
乳がん	2	0.3
卵巣がん	1	0.2
子宮筋腫	40	6.0
卵巣嚢腫	31	4.7
良性乳房腫瘍	10	1.5

男性73.4歳、女性80.4歳である。被爆者への長期にわたる保健福祉サービスが必要である。急性放射線障害の経験者はそうでない人々に比べ健康障害が起き易いと思われ、特に保健対策上、重点をおくべきである。

本研究は、予防策が必要な悪性疾患と非悪性慢性疾患のプロフィールを示している。

本研究の弱点を克服するために、被爆線量評価、がん登録との比較、被爆者の死因調査などが必要である。

日本からの独立後、韓国人被爆者の多くは韓国に帰ったが、約2,000人は北朝鮮に行ったと言われている[13)]。今後、北朝鮮の被爆者に関する調査がなされることを期待したい。

韓国人原爆死傷者と生存者の問題は日本帝国政府の強制移住により生じた。第二次大戦終結から長い年月が経ったが、戦争の影響は残る。戦後、日本政府は責任を回避した。われわれは、多数の日本市民が平和への熱意を持ち、韓国人被爆者を支援したいと考えていることを知っている、そして日本政府が前進的な姿勢で取り組むことがより平和な世界の構築に貢献することを確信する。

〔文　献〕

1）City of Hiroshima Social Affairs Bureau, Atomic bomb survivors relief department. Summary of Relief Measures for Atomic Bomb Survivors. 2003. www.city.hiroshima.jp/shimin/heiwa/relief.pdf（accessed 4 March 2005）.

2）Korean Atomic Bomb Survivors Association. Present Situation of the Korean Atomic Bomb Survivors. Seoul: Korean Atomic Bomb Survivors Association, 1985.

3）Ichiba J. Hiroshima in Korea. Seoul: Yeok Sa Bi Pyeong Sa, 2003.

4）Painful memories of Korean atomic bomb survivors. The Ohmynews, 10Dec2004. www.ohmynews.com/articleview/article_view.asp？4 menu=c10100＆－no＝200931＆rel_no＝1（accessed 4 March 2005）.

5）Pierce DA, Shimizu Y, Preston DL, Vaeth M, Mabuchi K. Studies of the mortality of atomic bomb survivors. Report 12, Part Ⅰ: Cancer：1950－1990. Radiat Res. 1996；146：1－27.

6）Preston DL, Shimizu Y, Pierce DA, Suyama A, Mabuchi K. Studies of mortality of atomic bomb survivors. Report 13. Solid cancer and noncancer disease mortality：1950－1997. Radiat Res. 2003；160：381－407.

7）Little MP. Risks of non-cancer disease incidence and mortality in the Japanese atomic bomb survivors. J Radiol Prot 2004；24：327－8.

8）Akahoshi M, Amasaki Y, Soda M, Hida A, Imaizumi M, Nakashima E, Maeda R, Seto S, Yano K. Effects of radiation on fatty liver and metabolic coronary risk factors among atomic bomb survivors in Nagasaki. Hypertens Res 2003；26：965－70.

9）Sasaki H, Wong FL, Yamada M, Kodama K. The effects of aging and radiation exposure on blood pressure levels of atomic bomb survivors. J Clin Epidemiol 2002；55：974－81.

10）Song KY, Kim YI, Kim TJ. A Research on the Actual Conditions of Korean Atomic Bomb Survivors. Seoul: Korea Institute for Health and Social Affairs, 1991.

11）Radiation Effects Research Foundation. A Brief Description of Radiation Effects Research Foundation. Hiroshia: RERF, 1999.

12）Korea National Statistics Office. Results of Making out the Life Table of Koreans. Daejon: Korea National Statistics Office, 2004.

13）Association for Physicians for Humanism. Health Status of Children of the Korean Atomic Bomb Survivors. Seoul: Association for Physicians for Humanism, 2004.